



NEWS RELEASE

ワイン子会社（北海道滝川市）の名称は「そらぷちファーム」に JCU、23年に自社栽培ブドウで年10万本出荷、世界に通じる日本ワイン目指す

株式会社JCU（代表取締役兼CEO：小澤恵二）は、4月20日の取締役会で設立を決議したワイン製造、販売会社の全額出資子会社（資本金3億円）を設立するとともに、北海道庁よりブドウ栽培用地「旧北海道畜産試験場滝川試験地跡地」約37.5haの借受けが承認されました。新会社の名称は株式会社そらぷちファーム（本社：北海道滝川市一の坂町西1-3-24 代表取締役：古屋修）としました。会社名のそらぷちとは、アイヌ語で「滝下る川」という意味で所在地である滝川市の由来となった言葉です。今後、土地整備に着手するとともに、19年にはワイン醸造施設を滝川市内で開設いたします。

国税庁が15年に、国産ブドウで製造したワインだけを「日本ワイン」と定義したことに伴い、全国的にワイン用ブドウの苗木が不足しています。新会社はまず山梨県から苗木を購入し滝川市でブドウを栽培、並行して国内の外部産地から購入したブドウで醸造を行い、消費量が急増している中国をはじめ東南アジア、中東に日本ワインとして販売します。アドバイザーとしてメルシャンワイン、勝沼醸造などで活躍した平山繁之氏を招聘し栽培・醸造指導を行い、23年には自社栽培のブドウでJCUブランドのワイン10万本／年を出荷するとともに、苗木の育成、販売も行い25年には売上高約3億円を計画しています。

本社所在地の滝川市は農業を基幹産業の一つとして位置づけており、ブドウの生産、ワインの醸造、販売まで一貫として行う6次産業化事業として地域産業の振興及び雇用創出を図るとともに、農業を通じた自然環境の維持、地球温暖化対策としてのCO2削減などJCUとしてのCSR（企業の社会的責任）の取組として進めます。また、滝川市には市が支援する難病とたたかう子供達のための自然体験施設「そらぷちキッズキャンプ」が設置されており、子供達の自然体験プログラムの一環としてブドウ収穫体験の受入れなどを行っていく計画です。なお、JCUと滝川市は太陽光発電事業で繋がりができ、本事業が実現しました。

【本件の問い合わせ先】

株式会社JCU 経営戦略室 王依緋(おう いひ)

TEL：03-6895-7004 FAX：03-6895-7022 E-mail：kikaku@jcu-i.com